

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—シャワー—

NO. 49



「大丈夫かな～」と、急に心配になってきたそうです。結果は、“案ずるより…”だったそうで、本人を目の前にして嬉しそうに話してくれたお母さん。ある小学生の話です

コロナ感染症拡大防止策の一環として、2月末、学校が急に休校に決まったとき、お母さんは、ひとつ大きな決断をしました。「私が仕事に行っている間、留守番をさせてみよう！」

少し前から、ご家庭と他の事業所さんとも話題を共有しながら、放課後や長い休みの期間、家で過ごすイメージを考えてみようという話は出ていました。まあ、いろいろ心配なこともあり、本人の気持ちもあり、なかなか前に進めていなかったテーマでした。その子とは、3歳からのお付き合いで、いろいろなスッタモンダはありましたが、個性的なキャラクターで、人懐こいけど、手をかけることの多かった歩みでしたが、そろそろ中学校の制服姿が近くなってきました。ずっと幼さを引きずっていたのですが、最近ずいぶん自信をつけてきたようです。気持ちがお兄さんになってきた分、コツコツ培ってきた力を、出すべき時にらせるようになってきたな、なんて、あんずの中でも話していたところでした。

お母さんは、朝、仕事に出かける前に、その子の今日一日のスケジュールを本人と一緒に確認します。学校から課題が出ているので、お昼までにやること、お昼を食べてからやることを整理して昼食の下準備もしておきます。本人は「自分でやるから大丈夫」と言うようになっていましたが、我が子を信じる気持ちは大きいのですが、信じきれない気持ちだって、身内だからこそ大きいものがありました。お昼にお母さんが戻れるときは、一度見守りに戻るそうです。最初はこなしきれないこともあったようですが、徐々に身に付いていきました。その子自身も自信になっていったようです。そんな日々が少しずつ習慣になってきました。休校は3カ月にも及んでいますからね。当然ことながら、段取りや声かけが緩くなってきます。

そんなある日の出来事でした。その日お母さんが何が心配になってきたかということ…、出かける前に、「今日は暑くなるから、夕方シャワー浴びたら？」とだけ告げて出てきてしまったのだそうです。何が心配になったか、わかりますか？もともとお風呂にはひとりで入るようにしていたので、浴室内のことは任せても大丈夫だったのですが、“シャワーを浴びる”って、ただ浴室でシャワーを浴びるだけではないですよ。着替えをタンスから出したり、タオルを準備したり。お母さんは何の準備もせずに出てきています。シャワーにまつわることがしっかりできているかな？と、急に心配になったのだそうです。「きっと大丈夫…でも…」と帰宅してみると、その子は、涼しい顔をして「おかえり！」と出迎えてくれたそうです。身なりも整っており、浴室もそのまわりも散らかっておらず、脱いだ服も洗濯機の中に入れてあったそうです。本人はまるでいつものことのごとくやったことなのでしょうが、お母さんにとっては大きな一歩！我が子への頼もしさにジーンときた瞬間だったそうです。小さい頃から、できることを増やそうとコツコツ積み重ねてきたスキルとしての“自立”に、考えて上手く行動していく“自律”が重なってきたエピソードでした。



なんだか、感無量で返す言葉がなかったです。「へ～そうですか～」の後は、照れる本人と、“こと”の意味を噛みしめあうお母さんとのうなずきで、十分わかりあえました。(R2. 6) K